



目次

- 「アクション油ヶ淵 in 碧南」が開催されました！
- 連載④ つくってみよう！エコクッキング「ミニ野菜のハーブスープ」
- 三河湾環境再生プロジェクト「干潟の生きもの観察会 in 東幡豆」
- 水質パトロール隊活動報告③「新城市立舟着小学校」
- 講演「アシは地球を救う」

紅葉のきれいな季節から、クリスマスが待ち遠しい季節になったね。

この季節で好きなのは、夜空を飛んでまわること。上空からだといlluminateーションの青いライトが幻想的な雰囲気でもって素敵なんだよ。そして、空気が澄んでいるから、星もきれいに見えるんだ。ちなみに、東の空で今一番輝いているのは木星だよ。

(あぶちゃん)



アクション油ヶ淵 in 碧南  
が開催されました！



平成24年10月26日(金)に、碧南市芸術文化ホールで「アクション油ヶ淵 in 碧南」が油ヶ淵水質浄化促進協議会の主催で行われ、多くのみなさんにお越しいただき、盛会のうちに終わることができました。

協議会では、油ヶ淵の水質を改善するために、平成17年度から油ヶ淵流域水環境モニタリング活動を継続的に行っています。このうち地元碧南市の水環境保全に貢献された次の6グループに対し、協議会としてこれまでの活動に感謝し、今後のより一層のご活躍を期待し感謝状を贈呈しました。

- ・ 株式会社小島組
- ・ 勤労青少年水上スポーツセンター
- ・ フッチーほたる会
- ・ へきなん市民環境会議
- ・ 碧南市立西端小学校エココラブ
- ・ 碧南市立西端中学校文化部

また、碧南市立西端小学校エココラブのみなさんが、環境学習の一環として行っている毎月1回の水質調査で水の汚れの原因を調べたこと、さらにホタルのすめる環境づくりのために活動していることを元氣よく発表してくれました。

そして、落語家の林家うん平師匠による講演が行われ、楽しくためになるお話は、豊かな水環境について考えるきっかけとなりました。

このイベントをきっかけにして、油ヶ淵の水質浄化の活動の輪が広がって行くことを期待します。



▼林家うん平師匠による講演の様子。



▲碧南市立西端小学校エココラブのみなさん。

連載④

# つくってみよう！エコクッキング



## 材料 (2人分)

- ・小玉ねぎ……………4個
- ・プチトマト……………6個
- ・キャベツ……………2枚
- A
  - 水……………2カップ
  - コンソメ(顆粒)…小1
  - ローズマリー……………ひとつまみ
  - タイム……………ひとつまみ
  - ローリエ……………1枚
- ・塩……………適量
- ・こしょう……………少々

## 作り方

- ① 小玉ねぎは端を切り落とし、キャベツは3cm長さの千切りにし、プチトマトはハタを取る。
- ② 鍋にAを入れ、柔らかくなるまで煮込む。
- ③ 仕上げにプチトマトを入れて軽く熱し、塩、こしょうで味付けを整える。

\*エコレシピは、財団法人愛知水と緑の公社と名古屋文理大学で共同開発された、水環境と健康を考えたレシピです。

おうちで簡単にできるエコレシピ。第4回目は、「ミニ野菜のハーブスープ」をご紹介します。もうすぐ、みなさんお待ちかねのクリスマス。街を歩くと聞こえてくる音楽や、イルミネーションなどから、楽しい雰囲気が伝わってきます。そこで今回は、プチトマトの赤と、キャベツの緑という、クリスマスカラーが使われているとってもかわいらしいスープをみなさんに！

このエコレシピは、油を使用しない工夫がなされており、ご家庭の台所から出る水の汚れを抑えることができるなど、下水道や浄化槽などの生活排水処理施設にも配慮されています。身の回りの水を守るためには、一人一人の心がけが大切です。一年の締めくくりに、エコレシピ作りを通して、水環境の大切さについて改めて、考えてみましょう。

# 干潟の生きもの観察会 in 東幡豆

干潟は多様な生きものが生息する水辺であり、漁場としても重要です。また、干潟は水質浄化機能を有している重要な場所です。

水地盤環境課では、干潟が持っている様々な機能の重要性について理解を深めるため、三河湾環境再生プロジェクトの一環で、「干潟の生きもの観察会 in 東幡豆」を7月21日（土）に西尾市東幡豆町の東幡豆海岸及び前島で開催し、県内各地から家族連れなど11組36名の方の参加がありました。



▲前島行きの船に乗り込む参加者達。



▲干潟での生きもの観察・調査の様子。



▼マテガイ捕りに夢中になる参加者。

今回の干潟の生きもの観察会を実施した前島及び東幡豆海岸はトンボロ（満潮時は海によって隔てられている陸地側と島側が、干潮時に干上がってつながる地形）となっています。今回の観察会では、島まで距離が離れていることや、午前中は潮位が高くて安全に渡ることができなかつたことから、参加者及び

スタッフは東幡豆漁港から船で前島へ渡りました。

観察会では、東幡豆漁業協同組合の石川組合長や水産試験場職員による干潟の生きものや干潟の浄化機能についての講座を受けた後、東幡豆海岸及び前島で、干潟の生きもの採取を行いました。

参加者は、干潟でエビ、カニ、マテガイ、アサリなど様々な生きものを捕まえました。特に東幡豆海岸から前島にかけてのトンボロでは今年も、マテガイを多く採取することができ、参加者は食塩の入ったボトルを片手にマテガイ捕りに熱中していました。

採取した生きものは観察用のバットに集め、生きもの名前や特徴を水産試験場の職員に教えてもらいながら、みんなで観察・調査をしました。調査の結果、29種類の生きものを確認することができました。

調査後の意見交換会では参加者から、「マテガイを捕まえるのが楽しかった。またマテガイ捕りをしたい。」「少ししか生きものがいないと思っていただけ、

こんなにいるとは思わなかったのでびっくりした。」「大人も大変楽しめたし、勉強になった。」「子供の自由研究のよい題材になった。子供にとっていい経験ができたと思う。」などの声が聞かれました。

今回の観察会では名古屋市を始め、尾張地方からの参加者が多く、三河湾や三河地域に関する新たな発見も多かったのではないかと思います。

今年度の三河湾環境再生プロジェクトのイベントは終了しましたが、来年度以降もこれらの楽しく学べるイベントを実施していく予定ですので、ぜひご参加ください。



▲生きもの観察・調査の様子。

# 新城市立舟着小学校



8月1日(水)、「新城市立舟着小学校」の活動取材しました。

舟着小学校は、JR新城駅から東へ3kmほどの平地にあり、近くを豊川が流れています。

水質パトロール隊のメンバーは4年生の子どもたち10名。みんな元気いっぱいです。調査場所となる豊川まで行くと、河畔から小さな魚がたくさん泳いでいるのが見えました。

この日は、国土交通省中部地方整備局豊橋河川事務所の方々が、水質や水生生物の調査方法を教えてくれました。

まずはCODやpH、透視度などの水質を調べます。豊川の水はとても澄んでいるので、透視度は100cm以上という結果になりました！



▲透視度計には水が満杯なのに、底までしっかり見えます。



▲水生生物調査の様子。どんな生きものがあるかな？

次は川に入って水生生物を調べます。川底の石をひっくりかえすと、ヒラタドROMシヤカゲロウの仲間がいっぱい見つかりました。つかまえた生きものは、バケツから白いバットにうつして観察します。種類と数から豊川の水質を判定すると、水質階級1の「きれいな水」となり、子どもたちはとてもうれしそうでした。



▲最後は、川での調査について教えてくれた先生と一緒に記念撮影！

## 講演 「アシは地球を救う」 西川 雅規 氏



▲講演の様子。みなさん真剣に聞き入っています。

平成24年10月28日(日)に、第5回油ヶ淵湖岸学校と並行して碧南市水上スポーツセンターの社会貢献イベントが行われました。その中から、NPO法人アカルプロジェクト西川雅規さんによる講演「アシは地球を救う」をご紹介します。

「アシ」を救う？ ヨシ？

油ヶ淵の湖畔にも生え、水質浄化を助ける働きがある植物として、みなさんにとってもおなじみの「葦」。

さて、みなさんは、「アシ」、「ヨシ」どちらで読んでいますか？ どちらも正解だそうです。アシの方が、起源が古いようで、アカルプロジェクトでは

「アシ」を使用しているのと。

「葦のよいところ」

葦には微孔があり水をろ過することができるため、「水中の竹炭」とも言われているのだとか。また、生長が速いことなどから、二酸化炭素の吸収にも貢献できるものと考えられています。

「葦のよいところを活用した取組を通じて、自然とつながるためのきっかけづくりをしている。」と、西川



▶油ヶ淵で行われた葦船学校の様子。

氏。この取組が大坂から広がり、横浜やこの身近な油ヶ淵でも行われていますので、ぜひご注目ください。

### 油ヶ淵流域市民モニタリング ふちもに情報局 vol. 55 平成24年12月発行

発行  
愛知県環境部水地盤環境課  
調整・生活排水グループ  
〒460-8501  
名古屋市中区三の丸三丁目1-2  
電話:052-954-6219  
Mail:mizu@pref.aichi.lg.jp